

平成15年度

首都圏整備に関する年次報告

第159回国会（常会）提出

目次

序章 トピックで見る首都圏この1年

1

第1章 首都圏整備をめぐる最近の動向

9

第1節 首都圏の居住構造の変化

1. 首都圏居住地の人口等の動向 10
2. ニュータウンの変容 16

第2節 首都圏の圏域形成の現状と今後の課題

1. 既成市街地における最近の動向 26
2. 広域連携拠点の整備の現状と課題 30

第3節 首都圏における女性の働き方

1. 首都圏における女性の就業状況 36
2. 首都圏における女性の仕事と子育ての実態 38

第4節 首都圏につくる水と緑と生き物の環

1. 「首都圏の都市環境インフラのランドデザイン」の内容 46
2. 地域での検討事例 52

第2章 首都圏の現況

55

第1節 人口・世帯数の状況 56

第2節 活力創出に資する機能の状況

1. 業務機能の状況 58
2. 産業機能の状況 60
3. 研究開発・高等教育機能の状況 70

第3節 個人主体の多様な活動の展開

1. NPOの現状と多様な支援 72
2. テレワークの推進 74
3. 高齢者等の生活・社会活動への支援 76

第4節 環境との共生

1. 公園・緑地等の状況 78
2. 河川環境の保全・回復 80
3. 海域環境の保全・再生 82
4. 環境負荷の低減 84

第5節	安全・快適で質の高い生活環境の整備	
1.	安全な暮らしの実現	88
2.	魅力ある居住環境の整備	92
3.	良好な都市景観の保全・創出	98
第6節	将来に引き継ぐ社会資本の整備	
1.	交通体系の整備	102
2.	情報通信体系の整備	114
3.	水供給体系・エネルギー供給体系の整備	116
4.	下水道の整備	120
5.	沿岸域の利用	121

第3章 首都圏整備の推進

123

第1節	首都圏整備計画の推進	
1.	首都圏整備計画	124
2.	政策区域等に基づく諸施策の推進	126
3.	東京圏のリノベーションプログラム	128
4.	業務核都市の整備	130
5.	国の行政機関等の移転の推進	132
6.	筑波研究学園都市の整備	134
7.	国会等の移転に関する検討	136
8.	大深度地下の適正かつ合理的な利用の推進	138
第2節	首都圏整備計画に基づく主要な事業の実施状況	140

資料 首都圏整備に関する各種データ

143

●凡 例●

本文中の「首都圏」、「東京圏」、「近隣3県」、「周辺4県」等は、特にことわりのない限り、次の区域を示す。

首都圏：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

近隣3県：埼玉県、千葉県、神奈川県

周辺4県：茨城県、栃木県、群馬県、山梨県

都心3区：千代田区、中央区、港区

多摩地域：東京特別区を除く東京都（島しょ部を含む）

関西圏：京都府、大阪府、兵庫県、奈良県

名古屋圏：岐阜県、愛知県、三重県

序

章

トピックで見る首都圏この1年

江戸開府400年事業

平成15年（2003年）は、慶長8年（1603年）に徳川家康が江戸幕府を開いてから400年にあたり、「江戸東京400年の魅力の再発見と未来への創造」を統一テーマとして、地域、企業、民間団体が主体となって祭やフォーラム、記念グッズ販売等の事業を行った。平成15年1月から12月までの期間に1,035の事業が展開され、イベントなどへの参加者の総数は約5,600万人にのぼった。

このうち、千代田区江戸開府400年記念事業実行委員会が主催した「江戸天下祭」（開催期間11月22日～24日）では、シンボル事業として「甦る、江戸の華～天下祭復活と創造の祭典」

をテーマに、山車・神輿巡行、江戸フェスティバル、江戸登城ウォークの三つのイベントを展開し、人々に江戸の文化を感じさせた。中でも山車・神輿巡行は、総勢5,500人が参加し、江戸型と言われる山車10台と神輿9基が24日の正午に日比谷公園を出発、丸の内仲通りのビル街を経て皇居前広場までの約2kmの道のりを4時間かけて練り歩き、約30万人の見物客を集め大変な賑わいを見せた。

江戸開府400年オープニング・セレモニー



資料：江戸開府400年事業推進協議会

江戸天下祭山車・神輿巡行



資料：千代田区

東関東自動車道館山線（木更津南JCT～君津IC）の開通

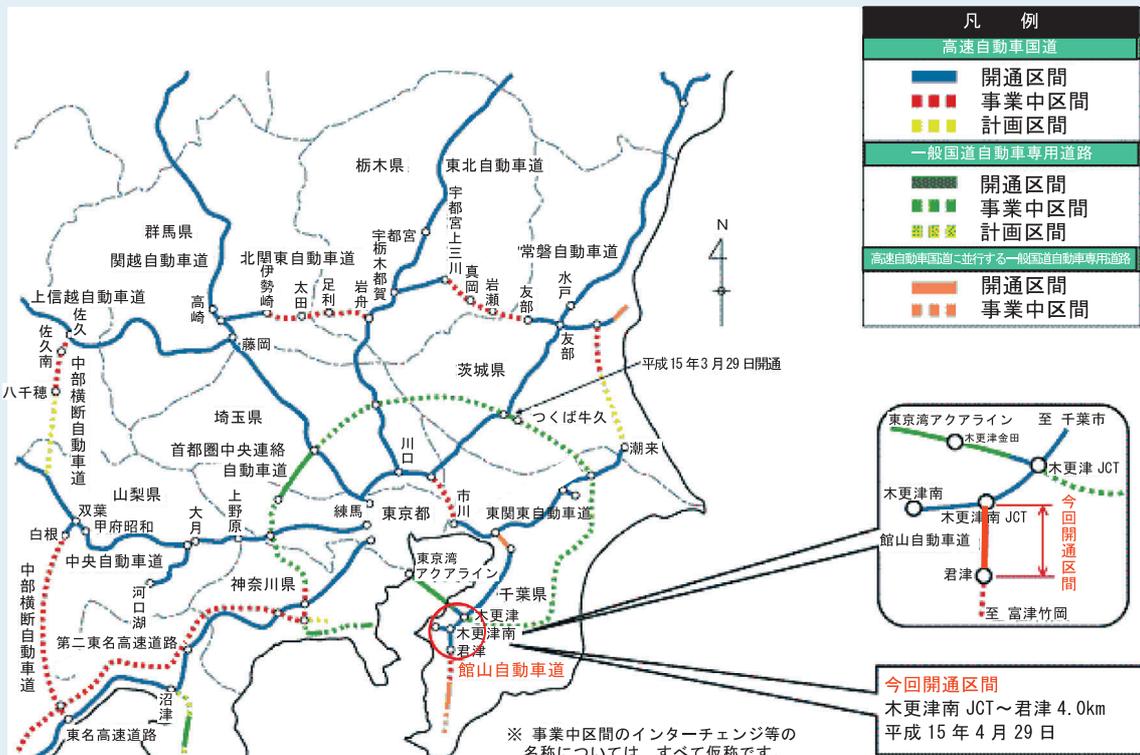
（平成15年4月29日）

東関東自動車道館山線（館山自動車道）の木更津南JCTから君津ICまでの間4.0kmが、平成15年4月29日に開通した。東関東自動車道館山線は、東京湾アクアライン、富津館山道路等と接続して高規格な道路ネットワークを形成し、千葉県房総地域の発展及び東京湾周辺の連携を強化する役割を持った路線である。この開通区間を利用することにより、東京・横浜方面からの車両が千葉県木更津市及び君津市の市街地を通過することなく、鴨川方面等の南房総地域へ向かうことが可能となり、木更津市及び君津市内の交通混雑の緩和並びに南房総地域への所要時間の短縮が図られるようになった。

開通式典



資料：国土交通省



資料：日本道路公団

東海道新幹線品川駅開業

(平成15年10月1日)

首都圏に新たな交通拠点が生じた。平成15年10月1日に東海道新幹線の品川駅が開業し、この日1日の駅の利用者数は開業前予測を上回り約7万人に達した。また、同新幹線のダイヤ改正も同時に実施され、東京―新大阪間を2時間30分台で結ぶ「のぞみ」を中心とする高速輸送体系に生まれ変わった。

これにより、渋谷など東京南西部の住民には東京駅を利用するよりも、約20分の時間短縮となる。今後、東海道新幹線の首都圏のターミナルとして大きな役割を担うことになる。

品川駅へ入る新幹線



資料：JR東海

セレモニーの様子



資料：JR東海

品川駅新幹線のりば（南口）



資料：JR東海

羽田空港、昼間時間帯に国際旅客チャーター便運航

(平成15年11月30日)

平成15年6月7日の日韓首脳会談における共同声明に「金浦^{キンポ}＝羽田間航空便の早期運航を推進する」旨が盛り込まれたことを受け、同年11月30日から、昼間時間帯（6時から23時まで）1日最大4便までの羽田＝金浦間の国際旅客チャーター便の運航が開始された。（関連P.111）

記念式典



資料：国土交通省

金浦空港に向けて離陸する日本航空機、全日空機



資料：国土交通省

みなとみらい線開業と相互直通運転

(平成16年2月1日)

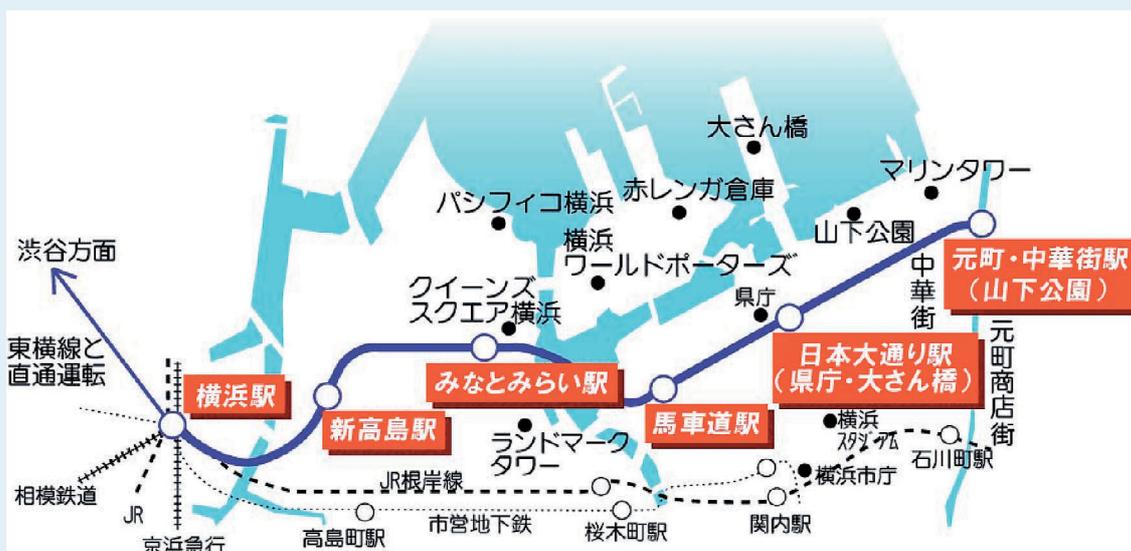
みなとみらい線が平成16年2月1日に開業し、東急東横線との相互直通運転が開始され、みなとみらい21地区や伝統的な観光地が東京都心部と直結された。渋谷方面からみなとみらい21地区や中華街、元町等の横浜都心部まで乗り換えなしで利用でき、渋谷一元町・中華街間を最速35分で結ぶ。

セレモニーの様子



資料：横浜市

みなとみらい線路線図



資料：横浜市

COREDO日本橋開業 ～日本橋エリアの活性化～

(平成16年3月30日)

中央区日本橋一丁目において「日本橋一丁目ビルディング」が建設され、平成16年3月30日、当ビル内の商業施設「COREDO日本橋」(コレド日本橋)が開業することにより、当ビルがグランドオープンした。平成11年1月31日に閉店した東急百貨店日本橋店の跡地を利用し、民間開発により新たなビルとして再生されたものである。

地上20階地下4階建てと地上2階地下2階建ての2棟からなるオフィス・商業等の用途の複合ビルで、低層部(地下1階から4階)の商業施設「COREDO日本橋」は、施設のテーマを「時を越えて」とし、百貨店や老舗名店に象徴される日本橋の商業の伝統を活かしつつ、これを現代的スタイルに解釈して提案しているのが特徴となっている。

現在、日本橋エリアでは、官・民並びに地元が一体となってエリアの活性化を図るための活動が活発に行われており、この施設の他にも「三越日本橋本店新館」、「(仮称)室町三井新館」などの開発計画も進んでいる。

「COREDO日本橋」は、これらの計画に先駆けてオープンし、当エリアの一段の活性化の起爆剤となるものと考えられる。



資料：三井不動産(株)、東急不動産(株)

